

一期一会 地域を動かす

美郷町 吾郷地域婦人会



1. 取り組みの概要

中山間地域での農業は鳥獣害対策の積み重ねです。この、鳥獣害対策に関する勉強会をきっかけにして地域の結束が強まり、鳥獣害対策や農業の枠を超えて活性化している皆さんがいます。

それが、島根県中部に位置し、川と山が複雑に入り組んだ美郷町の西部8集落からなる吾郷地区で活動されている吾郷地域婦人会です。

農林水産省をはじめ、全国からの視察が絶えず、平成20年12月には、『しまねの農林水産業・農山漁村「頑張っているリーダー」顕彰事業第1回表彰』を受賞されました。「日本農業新聞」や「現代農業」をはじめとする新聞、専門誌には幾度も掲載されています。



吾郷地域婦人会の安田兼子代表は、「先生に出遭わなかったら、今の皆のつながりも、青空サロンもなかったでしょうね。最初は特別な期待をしていたのでもなかったし、こうなるとは想像できなかったわ。」と素敵な笑顔で、本当に楽しそうに、お話してくださいました。聞き手も元気になるお話しぶりの安田さんに、これまでの取り組みをお聞かせいただきました。

2. 鳥獣害対策が地域振興に！？

● 何気ない勉強会から始まった、地域全体での鳥獣害対策

一どのようなことがきっかけで、鳥獣害対策に取り組まれたのでしょうか。

安田さん 町の産業課の安田君が、「井上先生の講演を婦人会でしてみませんか」と持ちかけてきたのがきっかけでした。

「井上先生」とは独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター大田研究拠点鳥獣害研究チームに勤務されている井上雅央チーム長。チームでは、野生動物のうち哺乳類（イノシシ、サル、シカ、タヌキ、ハクビシンなど）による農業被害を防護する技術を開発、研究されており、自立的に被害対策が実施できる農業者や自治組織の育成を目的とされています。（<http://wenarc.naro.affrc.go.jp/>）

井上先生には、「これならできる獣害対策—イノシシ・シカ・サル」、「山の畑をサルから守る—おもしろ生態とかしこい防ぎ方」（いずれも農山漁村文化協会）等の著書があります。

皆、高齢化してきますでしょ。その中で、「年をとっても畑とかたんぼで楽しむこと、それを助けてくれる良い先生がおられるので、婦人会で講演会を開催してみませんか」と言われたんです。安田君があまりにも熱心なので、どうするか婦人会で相談したら、それじゃ聞いてみようかということになったんですよ。



—講演会はいつ開催し、どのような方がお集まりになりましたか。

安田さん 平成17年の2月に講演会をしました。

鳥獣害については他の地区でも困っているようです。折角、良い先生が来られるということなら、男性の方も興味があるかなと自治会長さんに「私たちだけでなく、皆さんも話を聞きにきたらどうです？」と誘いました。そうしたら、地域の3割程度、70人余りの人が集まったんですよ。そこからが始まりでした。

—講演会での皆さんの反応は。

安田さん 講演会をする前は、「お話を1回聞いたら終わり」程度しか期待していなかったのですが、あまりにも先生の話が良し、面白いから、出席された皆さんが「是非、その話をもっときかせてくれ。勉強させてくれ」と、講演会が終わっても居残って、なかなか帰ろうとしないんですよ。「あの先生に指導してもらいたい」という意見もあちこちから出たんです。

そういうことがきっかけで、平成18年に保育所の前の畑を2反ばかり借りて「青空サロン」と名付け、鳥獣害に強い畑をつくる取り組みを始めました。農作業の力仕事は男性がするので、畑には婦人会のメンバーの奥さんだけでなく旦那さんも来る。やっぱり、隣近所が良くなるとどうにもならないでしょとお隣も呼ぶ。退職された方、都会からUターンされた方、今から農業をしたいけど手探りの方など様々な方が来られました。



青空サロン

婦人会の皆さんが作業をしています

—地区は山に囲まれています、どのような鳥獣害でお困りでしたか。

安田さん 線路沿いにずっと猿が出るんですよ。猿なんて人の話を聞いているんじゃないかっていう程、被害がひどかったです。立派な枝豆が実っていて、「役員会で一杯やろうな。15時頃にとって、ゆがいておいて」と話をした直後に猿に全部やられたこともありました。

—鳥獣害対策の取り組みは、どのように広まっていったのでしょうか。

安田さん こんな被害があった時に「先生、猿に農作物を盗られた！悔しい」と連絡したら、先生が現地に来られて「ここに木があったから、それを伝えて来たんですね」と原因を説明され、様々な対処をされる。それを皆が真似して、家で取り組むんです。先生はとても忙しい方です。先生だけでなく、チームの方なども来られて、いろいろと教えて下さります。

勉強会に来ることが出来ない方や来ない方もいますが、「隣にも教えてあげる必要がある」と、次第に皆で教えあいながら対策に取り組むようになってきました。対策に取り組む方が増えてくると、対策に取り組まれない方の畑だけが被害を受けることもあって、そういう方も「悔しい」と対策に取り組むようになるんです。

最初は何気ない勉強会だったんですが、地域が輪になったという感じがします。

—その、輪になった、一つのかたちが「青空サロン市場」でしょうか。

安田さん そうなんですよ。青空サロン市場、地域の直売所です。

3. 青空サロン市場

青空サロン市場—みんなの夢と元気を乗せて

—どのような経過で青空サロン市場という直売所が生まれたのですか。

安田さん 地域を歩いていると、お年寄りの方がいっぱい、いろいろな野菜を作っています。お年寄りの方は皆、野菜を作るのが上手でしょ。このままだともったいないと、いつも思っていたんですよ。

たまたま、安田君から、直売所をやってもいいんだけどなと話があったので、役員会で協議をしたら、「やってみようじゃない」と後押しがあって、婦人会の皆が「よし、やろう」という気になりました。

でも、お金がないから全部手作りですよ。本当に最低限のものです。柱はうちの木を切り出したものだし、皆さん、材料を持ち寄って、トタンや釘を打ち付けて、平成20年に完成しました。

その後も、青空サロン市場を良くするために、色んな人が助けてくれました。地面がぐちゃぐちゃだったから、セメントで固めてくれたり、地表に大きな石がたくさんあって座り心地が悪いと土木業者の方が真砂土を入れてくれたり、雪が降ると除雪をしてくれていたりと、涙が出るくらいうれしかった。

—当初、青空サロン市場ではどのような活動をされていたのですか。

安田さん お年寄りの農家の方の野菜を婦人会や自治会が集めて、販売していました。また、青空サロン市場に来られる皆さんにお茶を出したりしていました。

—この取り組みは、どのようにになりましたか。

安田さん 話し合う場が出来てね、「もう少ししたら桜を植えようかな」とか、いっぱい夢があってね、皆、そんな思いでやって来てくれるんですよ。憩いの場です。お年寄りがシルバーカーを押して来られて、「わしゃー、これがあるけえ、楽しいけえ来るだあねえ」と。有り難いことです。

お年寄りは色々な経験をしているからね、皆、手作りでいろいろなものを持って来てくれるんですよ。野菜やおかず、ケーキやパンなども手作りで。売るのではないのでお金にはならないけど、もう、皆さん、腕の振るいどころ。上手な方がたくさんいますからね。それが美味しいので、「これ、どうやって作った？」と話が弾みます。そんなことがたくさんあって楽しいんですよ。

そんな感じで連帯意識が強まったかなと思います。



青空サロン市場

地域の皆さんの憩いの場になっています

成功の秘訣、残したい気持ち

—これまでを振り返ってみると、いかがでしょうか。

安田さん 若い人たちもいずれ年をとります。その時に自分たちに何かが残っていれば、引き継いでもらえるかもという考えがあります。でも、自分たちが、元気に、やれる時にやれることをするというのが一番じゃないでしょうか。その姿を若い人が見てくれたら、「じゃ、やろうかな」という気持ちを持ってもらえるかもしれないしな、と思っています。それは欲なのですが。

若い人は働く場所がないから出て行って、本当に高齢化が進んでいます。せめて残った者だけで生きがいになることが出来たらいいし、青空サロン市場のような場所があると、お年寄りも家に一人でポツンというよりも元気になります。

—他の地域でも皆さんのように、元気に、楽しく活動されるためのアドバイスをいただけますか。

安田さん その地域にやる気があるかどうかということもありますが、タイミングというのもあると思います。私たちはたまたま、このようなチャンスがあっただけで乗った。乗ったのはやる気があったからなんです。それは、たまたまタイミングが良かったんです。働くことも子育ても終わって、何かしないといけなかなという時のことでしたから。働いていたら、なかなか取り組めないかもしれません。また、取り組んでいるところに声をかけてあげるということも大切です。

地域の取りまとめ役が、地域の皆さんの取り組みを受け入れることができるかということも大切だと思います。私たちのことと言えば、婦人会の会員さんは皆、いいものを持っています。俳句が出来る人、お花が出来る人など、いろんな人がいて、私は、皆の個性を出せる婦人会にしたいと思っています。窓口を広くしてどなたが参加されてもいいように、皆の意見を聴いて大事にするように心掛けています。私が駄目だから、皆さん、持っているものを出したいわけ。私なんか楽なんです。会計は、昔から勤めている人がきちんとしている。販売に長けた人もいます。そんな皆さんが、意見や良いところを発揮する場にすることが一番だと考えています。井上先生は、「ここで一番つまらないのは安田会長だ」なんて言うんですよ。だから、皆が助けてくれるんです。

しまねの農林水産業・農山漁村「頑張っているリーダー」顕彰事業

「持続的に発展する島根の農林水産業・農山漁村」の実現に向けて、今年度からスタートした「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画」の地域プロジェクトを牽引し、地域の創意工夫に基づき主体的かつ積極的に活動している方の知事表彰を始めました。

頑張っているリーダーの活動を広くPRすることにより、一層の活動意欲・やる気を喚起するとともに、地域内外への波及効果、農林水産業・農山漁村の役割について県民の方への理解が促進されることを期待しています。

この「しまねの農林水産業・農山漁村「頑張っているリーダー」顕彰事業」は、平成20年度から平成23年度まで（活性化計画の期間）年1回表彰を実施します。



安田さん受賞の様子と青空サロン市場

平成20年度（第1回）の様子は、島根県のホームページに掲載しています
○知事表彰・歓談・ランチミーティングの様子

(http://www.pref.shimane.lg.jp/admin/pref/hyoushou/nousui_soumu/gannbaruri-da/heisei20nen.html)